



長崎高教組

定通部だより

2013年7月19日

第3号

発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>
メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

2013年度 定通部役員

部長 濱本功二（大村定）
副部長 江頭清隆（佐工定）
副部長 今泉 宏（鳴滝夜）



第24回定通部定期大会

2013年7月15日(月・海の日)10:30~12:00 高教組

午前中の定期大会には11分会中8分会が出席、2分会からは委任状が提出され、大会は成立しました。濱本定通部長（大村定時）、小田執行副委員長（鳴滝通信）のあいさつのあと、烏山代議員（鳴滝夜間）の進行で、2012年度決算、2013年度役員承認、2013年度活動方針、2013年度予算について審議し、すべてほぼ議案書通り可決しました。

活動方針の中で、鳴滝通信の富永代議員から「通信制の教職員が年々減っている。新課程になりレポート教材の新規作成もあり、忙しくなっている。方針にある大幅増員は現実的でないので、減らさない要求が現実的である。その場合、出張指導性は難しい。」との意見が出され、原案を修正しました。

2013年度予算においては予算規模が昨年より小さくなっていますが、闘争費は例年通りで組みました。7月26日から大阪市で行われる全国定通教育学習交流集会に大村定時から2名の生徒の派遣を了承。また、中国四国九州ブロックの学習交流集会は11月2日からお隣の佐賀県で開催されるので、長崎から一人でも多くの方が参加できるように予算化しています。みんなで佐賀に行って定通部の交流を深めましょう。

県教研「定通部分科会」13:00~16:30

テーマ「定通制高校における諸問題」16人が参加

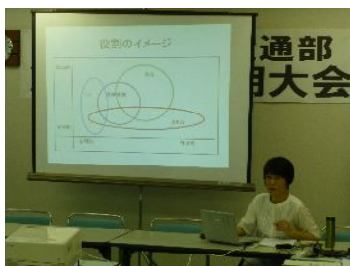
午後からの学習会（県教研定通部分科会）前半は、昨年に続き木村和子さん（長崎市SSW）を講師にお招きして、「スクールソーシャルワーカー（SSW）」についての学習会を行いました。

「SSW実践報告～現状と課題～」と題した講演では、まずSSWの学校での役割、長崎県の現状、派遣申請から実際の対応までの基本的な内容、続いて実際の対応事例、最後に現在の課題について話していただきました。昨年の内容よりより具体的で、SSWの学校での働きについてより理解が深まりました。同時に高校（特に定通制高校）においてSSWの導入が必要であるということを実感しました。

長崎では県の予算または市独自の予算で市教委にSSWが配置されていますが、県立学校にはまだ配置されていません。中学まで関わった生徒が高校に進学したら関わることができなくなる、特別支援コーディネーターが各校で決まっているが、実際SSWの代わりに務めるのは難しいなどの問題点も出され、高教組定通部の県教委交渉の重要性を感じました。

まだまだ私たちが知らない関係機関が多くあり、勉強不足を痛感する機会にもなりました。未組合員の先生にも参加いただき、大変有意義な学習会となったことを報告します。

SSWの木村和子さん による講演



学習会の後半は、次の5本のレポート報告を行いました。

- | | | |
|-------------------------|---------|-------|
| 1. 「定通部調査報告」 | 鳴滝夜間 | 今泉 宏 |
| 2. 「事業所と教師の会（ETA）について」 | 佐世保工業定時 | 江頭 清隆 |
| 3. 「南相馬市でのボランティア活動について」 | 佐世保工業定時 | 江頭 清隆 |
| 4. 「生徒会新聞を用いた生徒指導」 | 鳴滝夜間 | 烏山 隆弘 |
| 5. 「『定時制の生徒指導』企画書」 | 諫早定時 | 馬場 敦子 |

1. 今泉レポートは、定通部で毎年行っている、入試状況調査、進路状況調査、今年初めて行った臨時教員配置率調査の報告。大村定時を除くと多くの夜間定時制が定員割れをしている。入学者が10名をきった学校は存続の危機であるが、その学校を必要としている生徒がいる以上、管理職とも協力して、存続させる努力が必要であるという意見が出されました。また、今年初めて行った臨時教員配置率調査で、定通の学校に臨時教員が多い現状が改めて浮き彫りになりました。

2. 江頭レポートで、以前はほとんどの定時制にあったと思われるETAが、佐工定、諫早定、大村定の3校になったことが分かりました。佐工定では、生徒や卒業制が働いている職場の方に役員をお願いしているが、他の会員（事業所）からの会費納入が少ないため、役員の方に多く納めていただいている。その結果予算規模が小さくなり十分な活動が難しくなっているという報告がありました。

3. もう一つの江頭レポートは、東日本大震災以降、毎年夏と冬に東北でのボランティア参加の報告。今年の夏も直接南相馬市の小高区でのボランティアに参加されるとのこと。江頭先生すごいです。

4. 烏山レポートは、旧長崎高校時代から生徒会指導部職員によって発行されている生徒会新聞「夕星（ゆうずつ）」を通して見える学校の歴史、そして生徒へ語りかける新聞の重要性についての報告。学校統合という歴史を経ながらも、33年前の校長の巻頭言が語る本校の存在意義は今日でも変わることがない。このように当時の新聞を読むことで学校に根付いている歴史を確認することができたという報告。また、生徒の感想を載せることによって、生徒の不安を安堵と期待へと昇華させている。生徒会新聞が

生徒たちに定時制でやっていけるという自信を与えているというレポートであった。



5. 最後の馬場レポートは、全日制と同じやり方ではとてもできない「定時制における生徒指導」についてまとめたレポート。「生徒の実態に応じて指導するとは、どのようなことか」を説明するため、まずは多様な生徒を5つのグループに分類。その分類が実にわかりやすい。そして、実情に応じるためのスキルとして具体例をあげて4つを紹介。どのスキルもほとんどの定時制ならば経験することであるが、いざレポートにまとめるとすると戸惑う内容。しかし馬場先生の分析は明快。参加者一同がなるほどと納得する内容だった。

定時制の生徒は「先生方をアルバイト先の上司や先輩のどの人と同じ」という視点で見ている。定時制の生徒は全日制の生徒以上に鋭い観察力を持っていることも忘れてはいけないと感じた。

SSWの学習会に続き、中身の濃い5本のレポート。定通部の学習会は今年も大成功でした。夜は濱本定通部長の結婚お祝いも兼ねて、8人の参加者による交流会も行い、充実した一日を過ごしました。